

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月11日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530732

研究課題名（和文）施設内虐待・暴力への包括的対応に関する臨床心理学的研究

研究課題名（英文）Toward Overcoming Violence in the Child welfare Facilities

## 研究代表者

田嶋 誠一（TAJIMA SEIICHI）

九州大学・人間環境学研究院・教授

研究者番号：70163459

研究成果の概要（和文）：日本の児童福祉施設における虐待・暴力問題には、潜在的なものと顕在的なもの、児童間・対職員・職員暴力というふうに分けて、二レベル3種類のものがある。こうした虐待・暴力に包括的に対応するための方法として、私は、施設が一丸となって取り組む安全委員会方式を2005年に提起した。本研究では、この安全委員会方式の効果を確かめ、その限界を認識しつつ、持続・発展させてゆくためのシステム作りを実践したものである。

研究成果の概要（英文）：The aim of this project is to overcome two levels of three types of violence in the Japanese child welfare facilities. In order to do that, we invented the method for generating system of everyday practice based on “the committee for protecting children from all types of violence”. In this project, we have organized a national convention for “the committee” every year. Finally we concluded qualitative and quantitative data from 15 institutions of the child welfare facilities show definitive evidence of the efficacy on “this committee”.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2600000	780000	3380000
2010年度	800000	240000	1040000
2011年度	100000	30000	130000
年度			
年度			
総計	3500000	1050000	4550000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：心理学的介入、児童養護施設、虐待・暴力、安全委員会

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の児童福祉施設において、潜在的なものと顕在的なもの、児童間・対職員・職員暴力という、二レベル3種類の暴力が存在するが、これでは「成長の基盤としての安心・安全な生活」が送れていないと言わざるをえない。しかもこの二レベル3種類の暴力が連鎖しているという事実は[田嶋 2005a]によって初めて指摘された。これに包括的に対応する仕組みとして、日常的に、「モニターしつつ支援する」仕組みとして、2006年か

ら実践されてきたのが「安全委員会」方式である[田嶋 2005b]。

## 2. 研究の目的

そこで本研究の目的は、安全委員会が既に導入された6自治体12施設において、①その施設風土の測定、②施設間の比較、③施設ネットワークの形成、④ネットワーク内での個別ケアという主に4側面から安全委員会方式の効果を確認し、また限界を認識することであった。

### 3. 研究の方法

だが2009年から毎年、主に③を念頭に置いた安全委員会の全国大会が開催したところ、そこでの実践報告が自動的に①と②の側面を併せ持つことが分かったため、③を方法論の中心に据えて研究を推進した。

### 4. 研究成果

安全委員会方式には、現在8つの基本要件がある[田嶋 2011 : 326]。

- ①力関係に差がある「身体への暴力」を対象とする
- ②安全委員会には、児相と学校に参加してもらおう
- ③委員長は外部委員が務める
- ④定期的に聞き取り調査と委員会を開催し、対応を協議し実行する
- ⑤事件が起こったら緊急安全委員会を開催する
- ⑥4つの基本的対応：1.「嚴重注意」、2.「特別指導」（または「別室移動」）、3.「一時保護（児相に要請）」、4.「退所（児相に要請）」
- ⑦原則として、暴力事件と結果の概要を入所児童に周知
- ⑧暴力に代わる行動の学習を援助し、「成長のエネルギー」を引き出す

強調しておきたいのは、安全委員会の審議と4つの基本的対応だけが注目され、それだけが安全委員会活動であると思われがちであるが、実際には、それだけでなく同時にスタッフによる安全委員会活動が必須であるということである。すなわち、安全委員会活動とは、①安全委員会の審議と対応、および②スタッフによる安全委員会活動の両者を含むものであるということである。生活場面でのスタッフによる暴力への対応や指導、ケース会議等をはじめ成長のエネルギーを引き出すための活動が同時に行われているのである。

- ①安全委員会の審議と対応
- ②スタッフによる安全委員会活動  
日々の指導：「叩くな、口で言う」等  
緊急対応 事件対応 応援面接  
ケース会議 等  
→成長のエネルギーを引き出す

こうした安全委員会方式を導入した施設同士で、理事長、施設長、指導員、管轄の児童相談所職員および小中学校の教師（または管理職）らに呼びかけ、全国大会での実践報告を2009年から3年間開催した。すると、全国大会を通じて、①それぞれの施設風土に応じ、②各施設の事件を安全委員会がどのように支援したかを報告し合うことで、③（児童相談所も含む）児童福祉施設の現場の職員同士で励まし合うネットワークが形成され、④そうした枠組みの中で、個別の心理療法や、学校学習補助の導入に効果が上がる事が分かった。ここでは2011年に開催した第3回目の全国大会の概要を報告しよう。

①これまでの全国大会は、安全委員会活動の関係者のみに限定したが、今回は児童福祉関係者にオープンにすることとした。盛岡市で開催し、児童福祉関係者130名の参加があった。

②2006年から取り組んできた施設は既に5年目を迎える施設も出てきたので、安全委員会方式にも「持続・発展させてゆくためのシステム作り」の提案がなされるようになってきた。具体的には（1）各施設での暴力問題の「聞き取り調査」に加えて、安定してきた施設では子どもたちを応援するための「聞き取り」の時間にもすること。（2）各施設で毎年記念祝典を開催し、この1年努力してきた子どもたちを労うこと（例えば、表彰する）。（3）全国大会を開催し、相互に労い、学びあい、励ますことで、各施設の過去を思い起こし、今後の展望をもってもらおうこと、などである。

③3回の大会の様子はVIR録画し、テープ起こしをした上で、その試みと成果を報告書として印刷し、14施設で共有する予定である（編集中）。

④安全委員会方式の理論と実際を詳述した書籍（田嶋誠一著『児童福祉施設における暴力問題の理解と対応』金剛出版）を出版し、それを関係者に配布し、実践の知恵の共有を図った。

安全委員会方式が軌道にのり、安心・安全が子どもたちに実感できるようになると、しばしば以下のような変化が起こる。

- ①強い子が暴力をふるわず、言葉で言うようになる。
- ②弱い子がはじけたり、自己主張するようになる
- ③特定の職員に過去の被害体験や虐待体験を語るようになる。
- ④愛着関係や友人関係がより育まれる。
- ⑤職員が安心し、元気になる

「安心・安全」が実現されると、自然に、それまでとは違う愛着関係が展開してくるし、またしばしば子どもたちが自発的に過去の被害体験や虐待体験を特定の職員に語るようになる。「安心・安全」が実現できてこそ、「愛着」も「トラウマ」も適切に取り扱うことが可能になるものと考えられる。

個別施設での暴力事件の動態に関しては【田嶋 2011：414、707-708】参照。また12施設に関する定性的な評価については【田嶋 2011：668-677】参照していただきたい。

とはいえ問題は、施設内虐待・暴力の包括的解決であって、この方式自体を広げることではないので、その課題と限界についても考察・提言した【田嶋 2011：第11章】。

こうして安全委員会方式は、第三者評価もうけて、現在7自治体14施設で行われるようになった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

【雑誌論文】(計9件)

- ①田嶋誠一、児童養護施設に対して日本の専門家は何をしてきたか? 何をしていくべきか?、第50回日本児童青年精神医学会総会抄録集、2009、p.124
- ②飯嶋秀治、施設内虐待・暴力の解決に向けて—安全委員会の実態報告、第50回日本児童青年精神医学会総会抄録集、査読無、2009、P.201
- ③田嶋誠一、児童福祉施設の子どもの体験と「日常型心の傷」、現代のエスプリ、査読有、2010、pp.86-95
- ④田嶋誠一、岩手県和光学園安全委員会の意義、施設内暴力の解決に向けた安全委員会の取り組み、査読無、2010年、pp.1-4
- ⑤飯嶋秀治、子どもの暴力の問題とどう向き合うか、社会的養護とファミリーホーム、1、査読無、2010、pp.50-54

⑥田嶋誠一、成長の基盤としての「安心・安全」の実現—社会的養護の場でもっとも重要な課題、査読無、社会的養護とファミリーホーム、1、2010、pp.55-58

⑦田嶋誠一、現場を支援する立場から—「モニターしつつ支援する」仕組みとしての「安全委員会方式」、児童青年精神医学とその近接領域(日本児童青年精神医学会)、査読有、2010、pp.453-460

⑧田嶋誠一、児童福祉施設で起きていること—成長の基盤としての安心・安全の実現に向けて、こころの科学、査読有、2011、pp.78-84

⑨飯嶋秀治、児童福祉施設における暴力とケア、福祉と開発の人類学：ひろがる包摂空間とライフコース、査読無、2012、国立民族学博物館、pp.7-10

【学会発表】(計11件)

①飯嶋秀治、施設の現場から、第4回ファミリーホーム全国研究協議会、2009、ピアザ澁海

②田嶋誠一、現場への支援の立場から—「モニターしつつ支援する」仕組みとしての「安全委員会方式」の紹介、第50回日本児童青年精神医学会、2009、京都国際会館

③飯嶋秀治、施設内虐待・暴力の解決に向けて—安全委員会の実態報告、第50回日本児童青年精神医学会、2009、京都国際会館

④田嶋誠一、安全委員会活動の展開と今後の課題、第1回全国児童福祉施設安全委員会連絡会、2009、ホテルニュータナカ

⑤田嶋誠一、発達障害と安全委員会方式、第2回全国児童福祉施設安全委員会連絡会、2010、広島ガーデンパレス

⑥田嶋誠一、児童福祉施設における暴力問題の理解と対応—安全委員会方式の紹介、九州臨床心理学会、2011、長崎大会

⑦飯嶋秀治、「暴力」に直面した時、日本文化人類学会第45回研究大会、2011、名古屋大学

⑧田嶋誠一、児童養護施設への支援—暴力防止のためにシステム形成型アプローチ、日本家族研究・家族療法学会、2011、静岡県コンベンションアーツセンター

⑨田嶋誠一、安心・安全は成長のエネルギー、第5回日本ファミリーホーム研究全国大会、2011、福岡市健康づくりセンター・あいれふ

⑩田嶋誠一、子どもの健全な成長を支援する安全委員会活動の理論と実際、第3回全国児童福祉施設安全委員会連絡会、2011、ホテルルイズ

⑪飯嶋秀治、児童福祉施設における暴力とケア、福祉と開発の人類学—ひろがる包摂空間とライフコース、2012、国立民族学博物館

【図書】(計3件)

①田嶋誠一、現実介入しつつ心に関わる—

多面的援助アプローチと臨床の知恵、金剛出版、2009、pp.11-52

②小國和子・亀井伸孝・飯嶋秀治編、支援のフィールドワーク—開発と福祉の現場から、世界思想社、2011、pp.37-53

③田嶋誠一、児童福祉施設における暴力問題の理解と対応—続・現実介入しつつ心に関わる、金剛出版、2011、749

[その他]

ホームページ等

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K00480/index.html>

<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~comrel/i/iijina/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

田嶋 誠一 (TAJIMA SEIICHI)

九州大学・人間環境学研究院・教授

研究者番号：70163459

### (2) 研究分担者

飯嶋 秀治 (IIJIMA SHJI)

九州大学・人間環境学研究院・准教授

研究者番号：60452728